

物理学とディープラーニング (ゼミ)

B4 柳瀬調知

2023 年 5 月 27 日

5.4.1 2 スピンの問題

(5-22) のように $|\psi\rangle$ をおき、 $\hat{H}|\psi\rangle = \epsilon|\psi\rangle$ とおくと、

$$\begin{aligned} c_1 \left(\frac{J}{2} |\downarrow\rangle_1 |\uparrow\rangle_2 - \frac{J}{4} |\uparrow\rangle_1 |\downarrow\rangle_2 \right) + c_2 \left(\frac{J}{2} |\uparrow\rangle_1 |\downarrow\rangle_2 - \frac{J}{4} |\downarrow\rangle_1 |\uparrow\rangle_2 \right) &= c_1 \epsilon |\uparrow\rangle_1 |\downarrow\rangle_2 + c_2 \epsilon |\downarrow\rangle_1 |\uparrow\rangle_2 \\ \left(-\frac{J}{4} c_1 + \frac{J}{2} c_2 \right) |\downarrow\rangle_1 |\uparrow\rangle_2 + \left(\frac{J}{2} c_1 - \frac{J}{4} c_2 \right) |\uparrow\rangle_1 |\downarrow\rangle_2 &= c_1 \epsilon |\uparrow\rangle_1 |\downarrow\rangle_2 + c_2 \epsilon |\downarrow\rangle_1 |\uparrow\rangle_2 \end{aligned}$$

となる。2 つの状態の係数について連立方程式が 2 つ立ち、式 (5-23) になる。係数 c_1, c_2 が非自明な解をもつには、 ϵ が左辺の行列の固有値であればよいので、

$$\begin{vmatrix} \epsilon + \frac{J}{4} & -\frac{J}{2} \\ -\frac{J}{2} & \epsilon + \frac{J}{4} \end{vmatrix} = 0 \quad (1)$$

となる。これを解くと、 $\epsilon = \frac{J}{4}, -\frac{3J}{4}$. 規格化された固有ベクトルは

$$\begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} \quad (2)$$

となる。よって、式 (5-24) が \hat{H} の固有状態だと分かる。固有値が $\frac{J}{4}$ の 3 つの状態 (トリプレット) と $-\frac{3J}{4}$ の 1 つの状態 (シングレット) がある。強磁性的な場合 ($J < 0$) はトリプレットが、反強磁性的な場合 ($J > 0$) はシングレットが基底状態になる。

例題: 対称性と縮退

2 スピンの Heisenberg 模型で、 $\epsilon = \frac{J}{4}$ というエネルギーに、3 つの固有状態が縮退していた。このような縮退がある背後には通常、対称性が隠れている。

まず一般論として、 $[\hat{H}, \hat{A}] = 0$ となるような \hat{A} が存在すると仮定する。このとき、 $\hat{H}(\hat{A}|\psi_\epsilon\rangle) = \epsilon(\hat{A}|\psi_\epsilon\rangle)$ となるので、 $\hat{A}|\psi_\epsilon\rangle$ も $|\psi_\epsilon\rangle$ と縮退した別の固有状態になる可能性がある。

具体的に、2 スピンの Heisenberg 模型のハミルトニアンを考えると、これは \hat{S}_{tot}^α と交換する。

$$[\hat{H}, \hat{S}_1^\alpha] = [J\hat{S}_1^\beta \hat{S}_2^\beta, \hat{S}_1^\alpha] \quad (3)$$

$$= J[\hat{S}_1^\beta, \hat{S}_1^\alpha] \hat{S}_2^\beta \quad (4)$$

$$= i\hbar J \epsilon_{\beta\alpha\gamma} \hat{S}_1^\gamma \hat{S}_2^\beta \quad (5)$$

$$= i\hbar J (\hat{\mathbf{S}}_1 \times \hat{\mathbf{S}}_2)_\alpha \quad (6)$$

となる。同様に、

$$[\hat{H}, \hat{S}_2^\alpha] = [J\hat{S}_1^\beta \hat{S}_2^\beta, \hat{S}_2^\alpha] \quad (7)$$

$$= J\hat{S}_1^\beta [\hat{S}_2^\beta, \hat{S}_2^\alpha] \quad (8)$$

$$= i\hbar J \epsilon_{\beta\alpha\gamma'} \hat{S}_1^\beta \hat{S}_2^{\gamma'} \quad (9)$$

$$= -i\hbar J (\hat{\mathbf{S}}_1 \times \hat{\mathbf{S}}_2)_\alpha \quad (10)$$

式 (10)+ 式 (13) より、 $[\hat{H}, \hat{S}_{tot}^\alpha] = 0$ となる。よって、 $[\hat{H}, \hat{S}_{tot}^\pm] = 0$ も成り立つ。

実際に $|\psi_+\rangle$ に \hat{S}_{tot}^- を作用させると、

$$\hat{S}_{tot}^- |\psi_+\rangle \propto |\psi_0\rangle \quad (11)$$

$$\hat{S}_{tot}^- |\psi_0\rangle \propto |\psi_-\rangle \quad (12)$$

$$\hat{S}_{tot}^- |\psi_-\rangle = 0 \quad (13)$$

のように順に別の固有状態が得られる。しかし、 $|\psi_-\rangle$ に \hat{S}_{tot}^- を作用させても、新たな固有状態が得られることはない。このため、「可能性がある」とした。続いて、 $\sigma_y^2 = I$ と $e^{\hat{A}} := 1 + \hat{A} + \frac{\hat{A}^2}{2!} + \frac{\hat{A}^3}{3!} + \dots$ より、

$$e^{i\theta\sigma_y} = 1 + i\theta\sigma_y + \frac{(i\theta\sigma_y)^2}{2!} + \frac{(i\theta\sigma_y)^3}{3!} + \dots \quad (14)$$

$$= \cos \theta I + i\sigma_y \sin \theta \quad (15)$$

となる。 $\theta = \frac{\pi}{4}$ とすると、

$$e^{i\frac{\pi}{4}\sigma_y} = \cos \frac{\pi}{4} I + i\sigma_y \sin \frac{\pi}{4} \quad (16)$$

となる。式 (5-33) と式 (5-27) より、

$$|\rightarrow\rangle_j = e^{-i\frac{\pi}{4}\sigma_y} |\uparrow\rangle_j \quad (17)$$

$$= e^{-i\frac{\pi}{2}\hat{S}_j^y} |\uparrow\rangle_j \quad (18)$$

となる。よって、(5-32) が導ける。この式は $+z$ 方向を向いたスピンを y 軸まわりに回転させると $+x$ 方向を向くことを表す。これに対して、

$$\hat{S}_{tot}^\alpha |\phi_0\rangle = 0 \quad (19)$$

となるから、スピン・シングレットはスピン空間での回転に対して不変である。